

令和元年度 上江小中学校 「学校評価」(集計結果)

えびの市立上江小中学校小学部

※ ◎前年度比+0.3 ▲前年度比-0.3

評価基準: A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない N わからない

目標	評価項目	教師平均比較		児童平均比較		保護者平均比較		全体平均比較		項目平均差	項目平均差
		本年 / 昨年	本年 / 昨年	本年 / 昨年	本年 / 昨年	本年 / 昨年	本年 / 昨年	児童-教師	保護者-教師		
学力の向上	授業で個に応じた学習指導の工夫を行っている。	3.0 / 3.4 ▲	3.5 / 3.8	3.7 / 3.6	3.4 / 3.6	0.5	0.7				
	児童が、先生の話や発表する児童の話をしっかり聞くように指導している。	3.1 / 3.5 ▲	3.3 / 3.3	3.6 / 3.4	3.3 / 3.4	0.2	0.5				
	家庭学習の課題を児童に与え、取り組ませるようにしている。	3.8 / 4.0	3.5 / 3.7	3.4 / 3.6	3.6 / 3.8	-0.2	-0.3				
	家庭で課題に取り組んできたか確認し、事後指導をしている。	3.9 / 3.7	3.9 / 3.9	3.9 / 3.8	3.9 / 3.8	0.1	0.0				
	児童が、自分の将来の夢や希望をもつような、キャリア教育の充実に努めている。 教育課程特例校による「英会話科」の授業実践が、外国語能力の向上につながっている。	3.9 / 3.7	3.9 / 3.9	3.9 / 3.8 ▲	3.9 / 3.8	0.1	0.0	英語検定Jr. 6年生全員18名が受験して、ブロンズ2名、シルバー16名			
豊かな心の育成	児童が、元気なあいさつができるように指導している。	3.3 / 3.3	3.6 / 3.4	3.4 / 3.4	3.4 / 3.4	0.2	0.1				
	学校内における言語環境の整備を心がけている。	3.2 / 3.2	3.2 / 3.3	3.0 / 3.0	3.1 / 3.2	0.0	-0.2				
	共通の基準で生活指導に取り組んでいる。(基本的生活習慣の定着)	3.4 / 3.5	3.2 / 3.7 ▲	3.5 / 3.5	3.4 / 3.6	-0.2	0.1				
	読書活動の充実を図るように指導を行っている。	3.1 / 3.3	3.3 / 3.0 ◎	2.8 / 2.8	3.1 / 3.0	0.2	-0.3	⇒ 家庭での読書の習慣			
体力の向上	児童が、日頃の生活の中で、自ら進んで安全な行動が取れるように指導している。	3.3 / 3.5	3.4 / 3.7 ▲	3.2 / 3.1	3.3 / 3.4	0.1	-0.1				
	体力向上プランを基本に、児童の体力が向上するように指導している。	3.0 / 3.1	3.7 / 3.5	3.3 / 3.4	3.3 / 3.3	0.7	0.3				
	児童が、正しい姿勢(立腰)で授業を受けるよう指導している。	3.3 / 3.3	2.8 / 2.7	3.3 / 3.3	3.1 / 3.1	-0.5	-0.1	⇒ 学習中の姿勢の保持			
地域に貢献する人材の育成	児童の食への関心や食事マナーが向上するように、「弁当の日」の取組や給食指導の充実を図っている。	3.4 / 3.4	3.5 / 3.6	3.0 / 3.1	3.3 / 3.4	0.0	-0.4				
	地域のことに関心を高めたり、地域のよさに気付いたりするように、「えびの学」の充実を図っている。	3.2 / 3.3	3.7 / 3.4 ◎	3.0 / 3.1	3.3 / 3.3	0.5	-0.2				
	児童について、家庭への連絡を積極的にきめ細かく行っている。	3.3 / 3.6 ▲	3.5 / 3.5	3.4 / 3.4	3.4 / 3.5	0.2	0.1				
特別支援教育	学校は、情報発信を適切に行い、地域や家庭と連携して教育活動を行っている。	3.2 / 3.4		3.5 / 3.5	3.4 / 3.5		0.3				
	研修等を通して障がいの特性を理解し、個に応じた指導に当たっている。	3.2 / 3.6 ▲									
	将来、社会人として自立できるように、必要な支援を行っている。	3.1 / 3.2									

3.5以上 項目平均差については、0.3以上

全体平均は3.1以下 教師・児童・保護者平均比較は3.0以下 項目平均差については-0.3以下

⇒ 夢や希望をもつような話や体験が求められている

⇒ 家庭での読書の習慣

⇒ 学習中の姿勢の保持

令和元年度 上江小中学校(小学部)「学校評価」集計結果から見えるもの

※0.3をこえるずれをピックアップ
 ※○プラス評価のずれ ●マイナス評価のずれ

【全体的に低い評価】(3.1以下)	
▲ キャリア教育の充実……………	3.1
▲ 言語環境の整備……………	3.1
▲ 読書習慣の形成……………	3.1
▲ 立腰指導……………	3.1
【教師の低い評価】(3.0以下)	
▲ 個に応じた学習指導法の工夫	
▲ キャリア教育の充実……………	3.0
▲ 体力向上のための取組……………	3.1
【児童の低い評価】(3.0未満)	
● 立腰指導……………	2.8
【保護者の低い評価】(3.0未満)	
● 読書習慣の形成……………	2.8

【経年変化において昨年より下がっている項目】

- (教師) ● 児童が人の話を聞く指導
- 個に応じた学習指導法の工夫
- (児童) ● 個に応じた学習指導法の工夫
- キャリア教育の充実
- 共通の基準での生徒指導
- 安全な行動を取れる指導
- (保護者) ● キャリア教育の充実

【保護者・児童・教師との意識のずれ】	
<input type="checkbox"/> 児童の評価は高いが教師は低い	
○ 個に応じた学習指導法の工夫……………	+0.5
※ 経年変化により昨年度より下がっている(教師 児童)	
○ 体力を向上させる指導……………	+0.7
○ えびの学の充実……………	+0.5
<input type="checkbox"/> 教師の評価は高いが児童は低い	
● 立腰指導……………	-0.5
<input type="checkbox"/> 保護者の評価は高いが教師は低い	
○ 学習指導の工夫……………	+0.7
○ 話を聞くような指導……………	+0.5
○ キャリア教育の充実	
※ 経年変化により昨年度より下がっている(児童 保護者)	
○ 体力の向上……………	+0.3
○ 情報発信……………	+0.3
<input type="checkbox"/> 教師の評価は高いが保護者は低い	
● 家庭学習……………	-0.3
● 読書習慣の形成……………	-0.3
● 食への関心・マナー……………	-0.4

令和元年度 えびの市立上江小中学校 小学部 「学校運営協議会評価書」

学校教育目標 グローバルな視野をもち、主体的に活動するたくましい上江っ子の育成
 ～ 主体性・自律心・向上心にあふれた心身共に健康な上江っ子 ～
 めざす児童生徒像 ○ 礼儀正しく、元気のある子 ○ 目標をもって、自ら学ぶ子 ○ 責任をもって、確実にやり遂げる子

項目	重点目標と主な達成手段	具体的な取組	成果と課題（改善策等）
学力の向上	(1) 時間の設定や指導方法の工夫等、組織的な体制作りに努め、個に応じた指導の充実を図る。 (2) 研修を通して職員の授業改善を図る。 (3) 小中一貫の特色を生かした望ましい学習習慣や家庭学習の定着を図る。 (4) 教育課程特例校による「英会話科」の授業実践を通して外国語教育の充実を図る。	○ 4+4のチェックポイントを意識した授業を行うとともに下位に位置する児童の支援にも力を入れ、習熟の時間を確保しながら学力の定着を図るようにする。 ○ 全職員が年間2回の授業公開を行い、指導主事からのフィードバック、他の教員からのアドバイスを受けながら授業改善に努めていく。 ○ 初期研修については、メンター方式を導入し、全職員で関わっていくようにする。 ○ 小中で系統性・継続性のある教育課程の実施、充実を図る。また、小中教員による乗入れ授業を実施する。 ・ 中学部の理科担当が小学5・6年生へ理科の指導 ・ 中学部の音楽担当が小学2～6年生への音楽の指導 ・ 小学部の家庭科担当が中学生へ家庭科の指導 ○ ALTを交えた「英会話科」での学習を通して、コミュニケーション能力の素地をつくり、豊かな人間性を身に付けた児童生徒の育成を目指す。また、中学部における外国語学習への抵抗感を減らす。	● 学力の下位層の児童へは個別指導等において力を入れているが上位の児童との学力差を埋めるまでには至らなかった。 ○ 授業公開を行い、他の教員からのアドバイスを受けることで授業改善に役立てることができた。 ○ メンター方式を取り入れたことで、経験豊富な教員にとっても自分を振り返る良い機会となった。 ○ 乗り入れ授業を通して、小中の教員間で協議を行うことで児童への理解を深めることができた。 ○ 「英会話科」の学習を通して、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童が増えた。
豊かな心の育成	(1) 読書活動の推進のための積極的な働き方を図る。 (2) 元気なあいさつを基本に、主体性のある児童会の活動を促し、望ましい人間関係の醸成を図る。 (3) 小中一貫の特色を生かした積極的な生徒指導に努める。	○ 読書月間、お話玉手箱等、子どもたちが興味・関心をもてる取組を積極的に行い、読書に親しむ環境を整える。 ○ 児童会・生徒会が連携し、「地域貢献活動」について話し合いを行い、地域の施設の清掃など、児童主体に取り組む活動を計画する。 ○ 子どもたちの健やかな成長のために、関係機関と連携を図りながら小中学校の職員の情報交換を密にしながら対応し、よりよい方向付けができるようにする。	● ボランティアや中学生による読み聞かせを通して、読書に対する興味・関心を高めることができたが、家庭での読書の習慣など課題も見られる。今後も読書の啓発活動に力を入れていく。 ○ 地域貢献活動では、地域の道路や施設の美化作業等を行う予定であるが年間を通して計画的に実践するようしていく。 ○ 支援の必要な児童については、支援学校の職員による関わりや、SSWのアドバイスなども得ながら支援体制について共通理解を図り、支援に当たることができた。
体力の向上	(1) 小中一貫の特色を生かした体力向上プランの実施及び食育の推進を図る。 (2) 立腰指導の徹底や運動の推奨をととして体力の向上を図る。	○ 運動を好む子と苦手としている子の二極化が見られたため、体力向上プランをもとに体育学習の更なる充実を図る活動を通して、運動の楽しさを味わわせるようにする。また、合同運動会、合同ロードレース大会を実施することで、競技などに向かう姿勢、練習、準備、片付けなどの態度等について小学生に学ぶ機会を設定する。 ○ 立腰集会や学級での指導を通して、正しい姿勢を意識させるとともに、年間を通して食育指導を行うことで成長期における栄養の大切さについて理解させる。	○ 委員会活動の児童を中心とした全校遊びを3回企画し、楽しく活動に取り組むことができた。また、体力向上プランに合わせて、準備運動や、サーキットトレーニングを授業の中に取り入れることで、児童の運動への意識を高めることができた。 ● 集会や指導週間での取組を通して姿勢を意識させることはできたが、常時指導においても指導を行い、定着を図っていく。
地域に貢献する人材の育成	(1) 「えびの学」を中心に、体験活動を積極的に取り入れることで、地域に対する愛着や理解の深化を図る。 (2) 積極的な地域・関係機関との連携や外部人材の活用により、地域に開かれた教育課程の実現を図る。	○ えびの市の自然、祭り、伝統芸能、歴史についてそれぞれの学年の実態に応じて地域と連携を図りながら計画的な体験活動を実施し、えびの市のよさや素晴らしさに気付かせる取組を行う。 ○ 地域支援ボランティアを通して、ガイドや講師の学習支援のサポートを依頼したことで、学習をより効果的・効率的に行う。 ○ 学級通信、学校便りの定期的な発行、ホームページの随時更新など、積極的に学校での様子を公開する。緊急を要する場合は、「しらはとメール」で職員・保護者に情報発信する。 ○ 地域にある公共施設等へ実際に見学に行くことで、その施設が地域社会へ果たす役割や思い、願い等について気付かせる。また、積極的に出前授業（もの作り教室、手話教室、味覚の授業、租税教室、国際理解教育等）で講師を招き、子どもたちに興味・関心をもたせ、指導効果を上げていくようにする。	○ 上江地区の伝統芸能「輪太鼓踊り」では保存会の方に10回指導に来ていただき、運動会で披露することができた。 ○ 地域支援ボランティアについては、史跡巡りや用水路見学など活用を図ることができた。今後、更に充実したものを目指していく。 ○ ホームページの更新を随時行うことができ、保護者からも好評であった。学校だより、学級通信、学級懇談会等で学校の様子を伝えていくことができた。 ○ 新聞投稿は、総数40点以上になり、図画や書写、作文などを通して情報発信することができた。